

Ⅱ 調査研究の結果

1 アンケート調査

(1) 回収状況

表 1

対象	調査数	回答数	回収率
教育委員会担当	12	11	91. 7%
学校担当	97	84	86. 6%
(小学校)	(74)	(67)	90. 5%
(中学校)	(23)	(17)	73. 9%
地域コーディネーター	65	62	95. 4%
学校支援ボランティア	130	96	73. 8%

(2) 担当者について

ア 教育委員会担当者について (回答のあった全市町の事業担当課は生涯学習課)

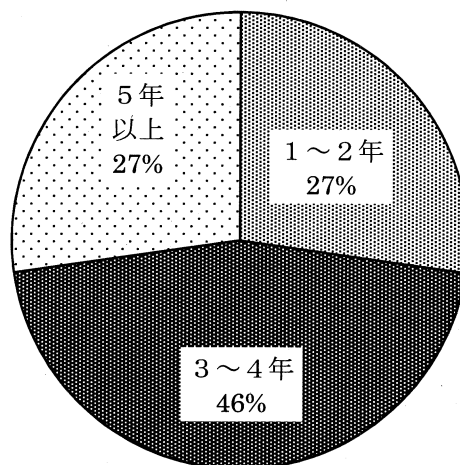
(ア) 勤務年数

担当者の現職場での勤務年数をおたずねします。

教委問 4 (1)

図1 -ア(ア)

現職場での勤務年数 n=11



5年以上現職場で勤務している教育委員会担当者は27%、3～4年が46%、1～2年は27%となっている。

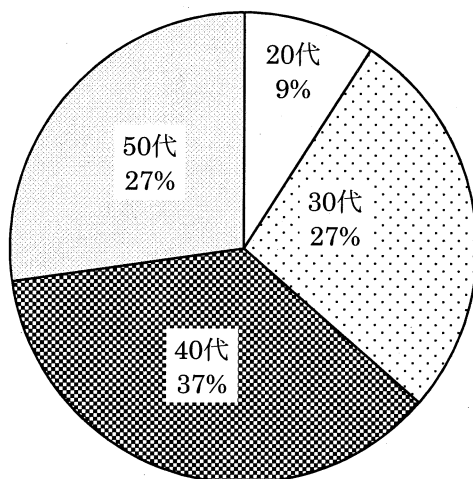
(イ) 担当者の年齢

担当者の年齢をおたずねします。

教委問 4 (2)

図1ーア(イ)

教育委員会担当者の年代別割合 n=11



担当者の年代では、40代が最も多く 37%、50代と30代がいずれも 27%、20代の担当者が 9%であった。

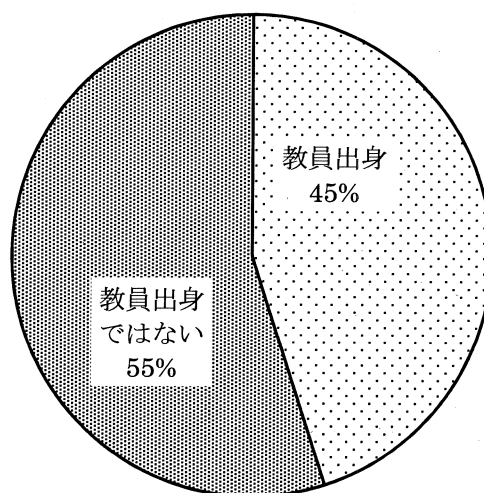
(ウ) 担当者の属性（教員）

担当者は教員出身ですか。

教委問 4 (3)

図1ーア(ウ)

担当者 n=11



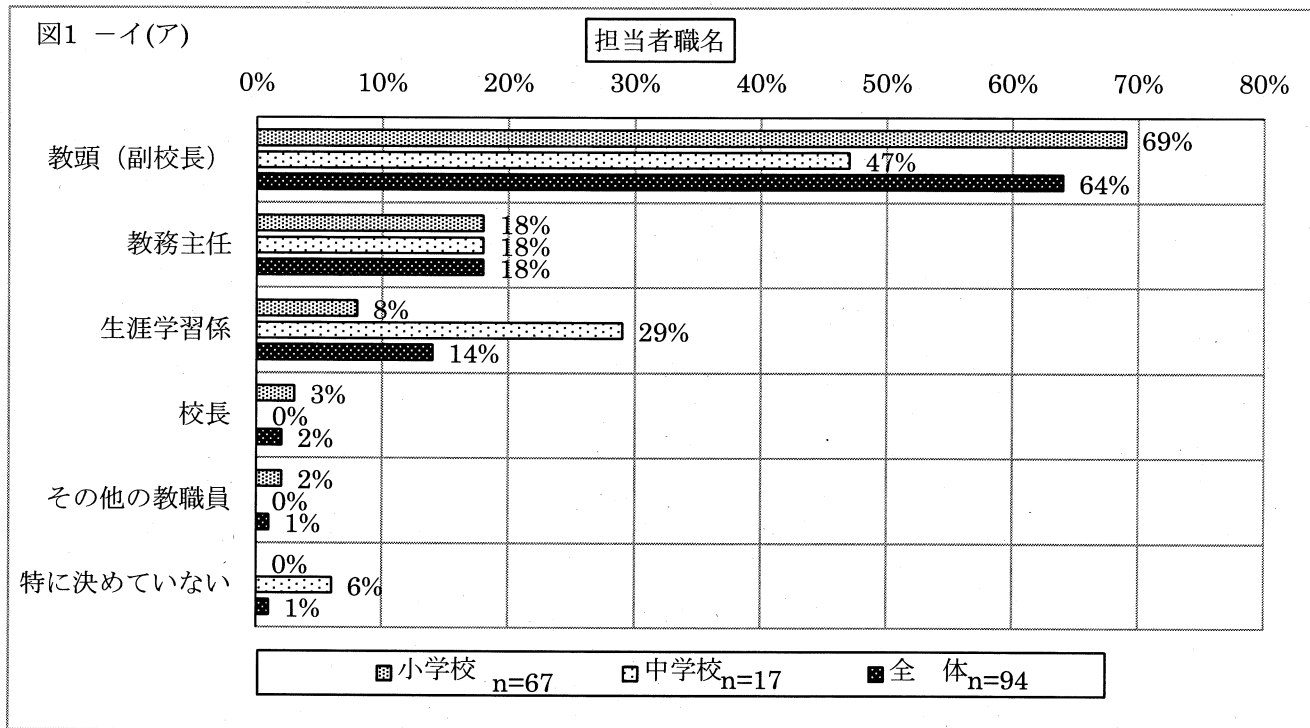
教育委員会担当者の 45%（6 人）が教員出身であり、すべて社会教育主事として発令されている。なお、教員出身ではない担当者については、社会教育主事有資格者はいなかった。

イ 学校担当者について

(ア) 担当者職名

担当職員（窓口教員）はどなたですか。

学校問 4 (1)

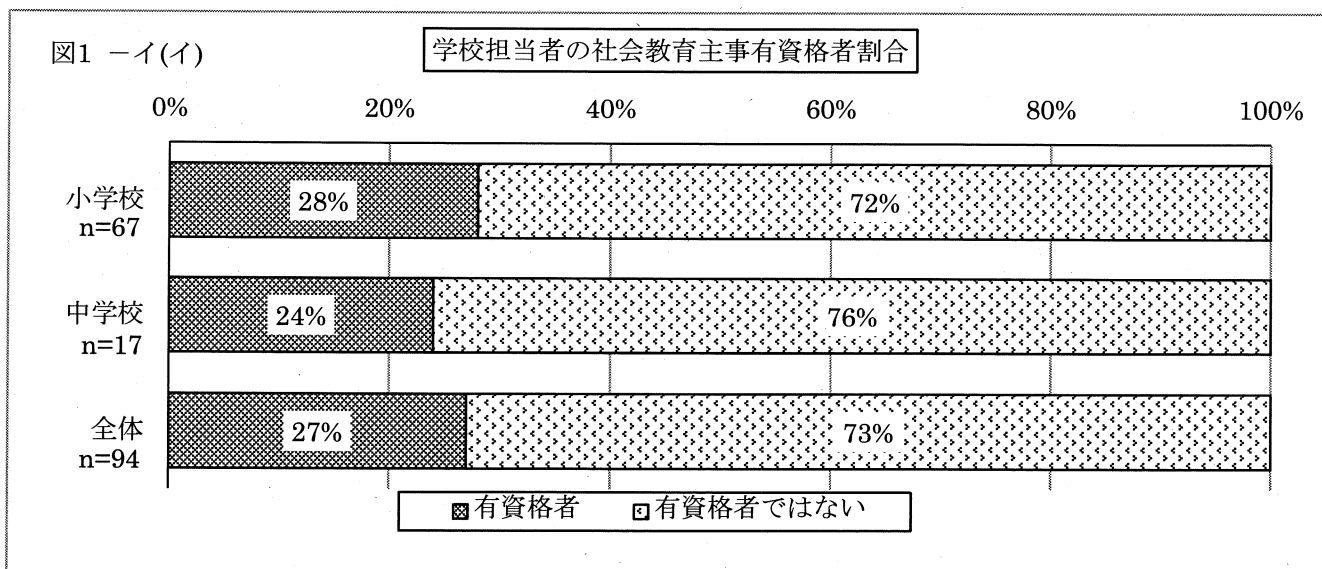


教頭（副校長）が担当している学校が全体の 64%で最も割合が高い。これは、多くの学校で教頭（副校長）が渉外を担当していることからであると思われる。

また、中学校では、「生涯学習係」の割合が 29%と教頭（副校長）に次いで高い。

その他の教職員・・・学習指導主任。

(イ) 担当者の社会教育主事有資格者割合



回答のあった学校担当者に占める社会教育主事有資格者の割合は、小学校が全体の 28%、中学校が 24%、全体では 27%であった。社会教育主事有資格者が教員全体の 6.9%(平成 23 年度)であることからみると、高い割合であるといえる。

ウ 地域コーディネーター

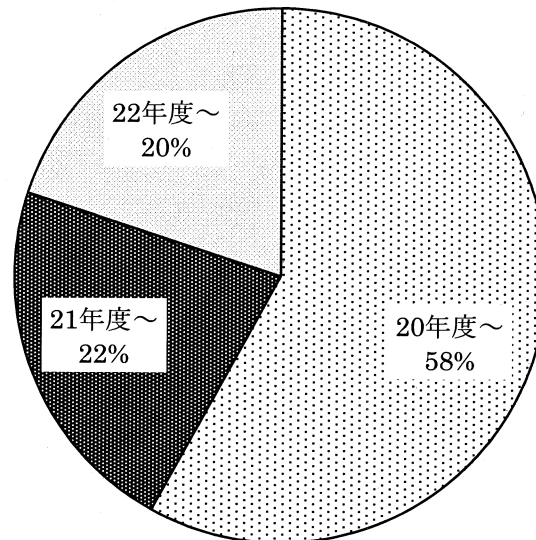
(ア) コーディネーター開始年度

あなたがコーディネーターを始めたのはいつからですか

コーディネーター問 1 (1)

図1-ウ(ア)

コーディネーター開始年度 n=62



事業初年度である平成 20 年度から開始したコーディネーターが 58%で最も多い。2 年次である平成 21 年度から開始したコーディネーターは 22%、最終年度である平成 22 年度から開始したコーディネーターは 20%であった。全体の 80%は 2 年以上の経歴があるということになる。

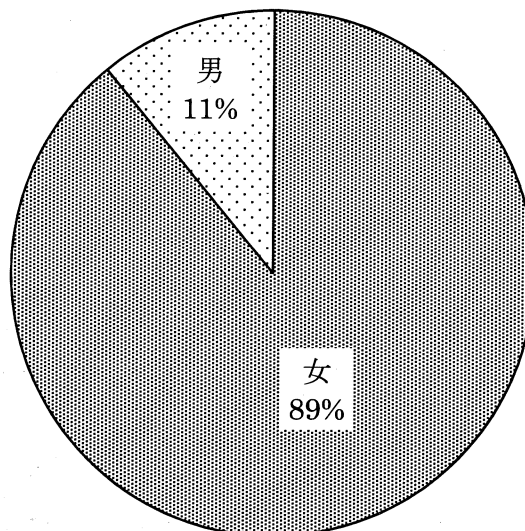
(イ) コーディネーターの性別

性別をお答えください。

コーディネーター問 4(1)

図1-ウ(イ)

コーディネーターの男女比 n=67

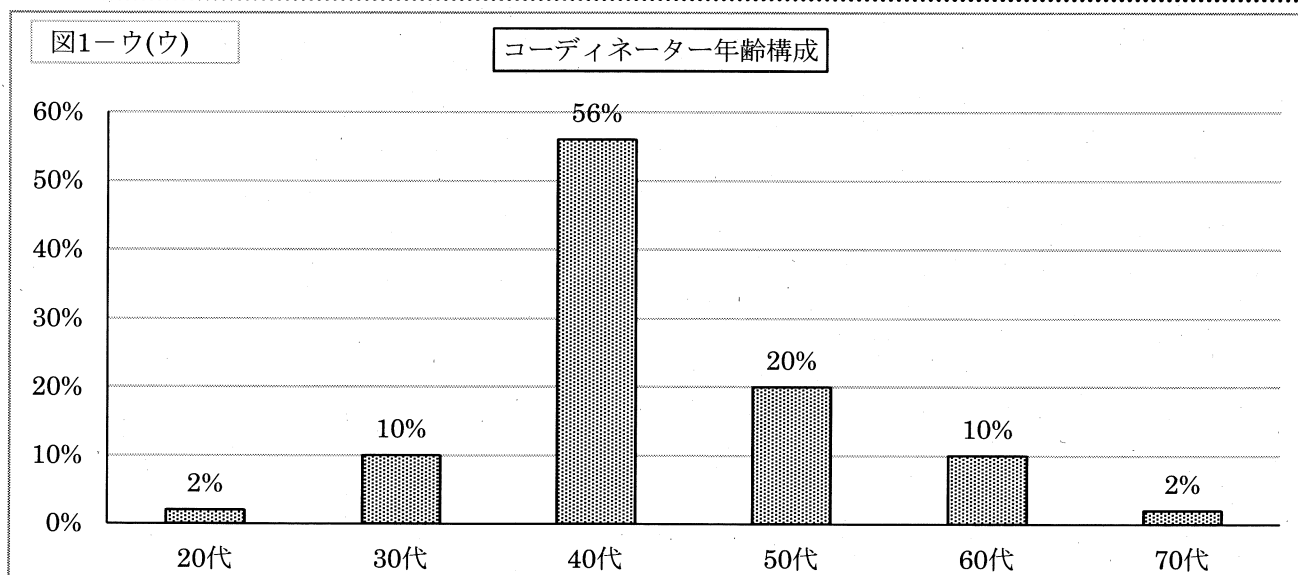


回答のあったコーディネーターの 89%が女性、11%が男性である。

(ウ) コーディネーターの年齢

年齢であてはまるものを選んでください。

コーディネーター問 4 (2)

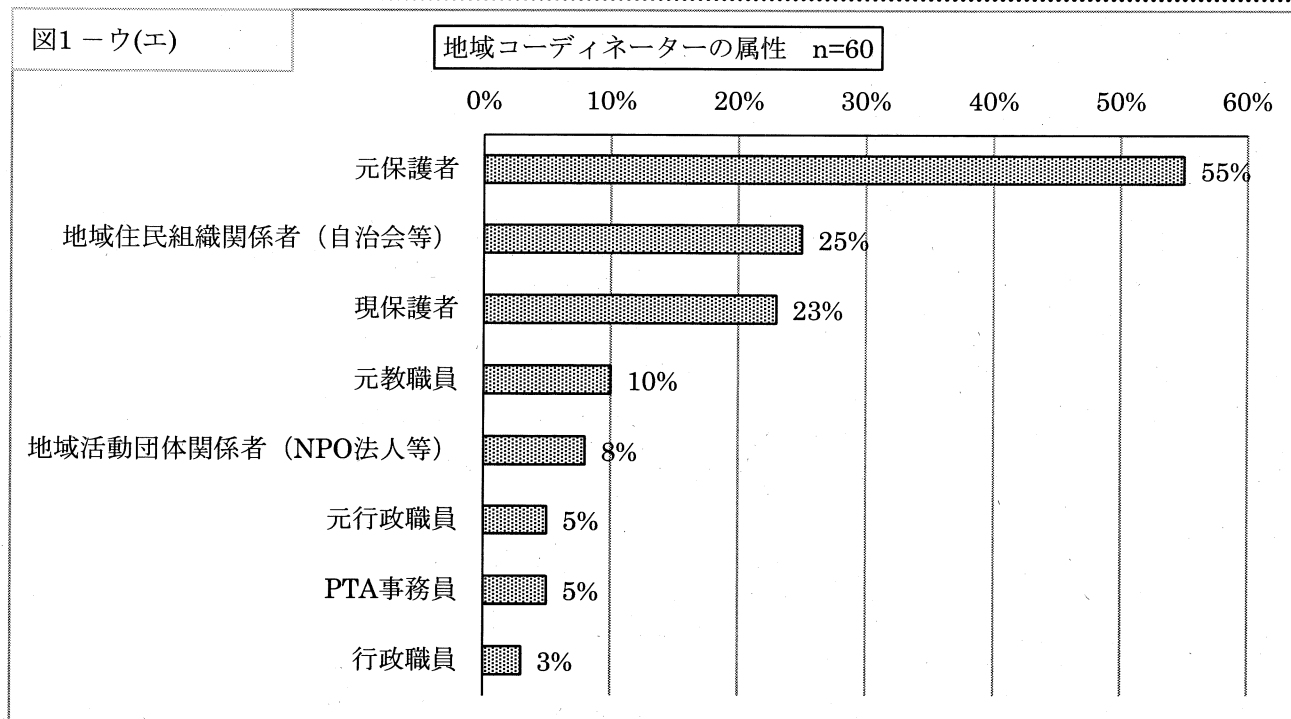


回答のあったコーディネーターの年齢は、40代が56%と半数以上で最も多く、続いて50代が20%であった。

(エ) コーディネーターの属性

属性は何ですか。(あてはまるものすべて)

コーディネーター問 4 (3)



回答が最も多かったのは「元保護者」で55%であった。続いて、自治会や地域協議会等に関わっている「地域住民組織関係者」の25%、「現保護者」の23%であった。

PTA活動等によって、学校の状況を良く把握している「元保護者」がコーディネーターになることがうかがえる。また、図1-ウ(ウ)との関連から考えると、40代から50代のコーディネーターの多くがここに含まれると考えられる。

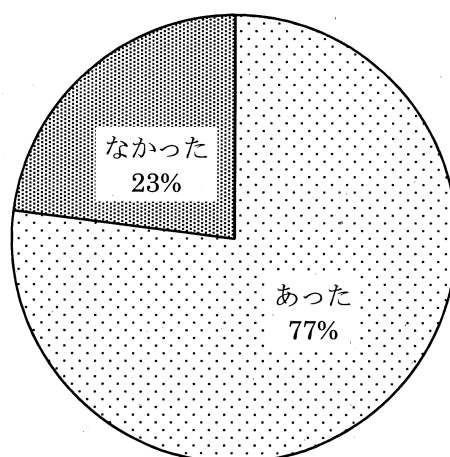
(オ) コーディネーター活動拠点①

活動の際に、拠点となる場所（ボランティア室など）はありましたか。

コーディネーター問 1 (3)

図1-ウ(オ)

活動の拠点となる場所 n=62



ボランティア室等の活動の拠点となる場所があったと回答したコーディネーターは 77%、なかったというコーディネーターは 23%であった。

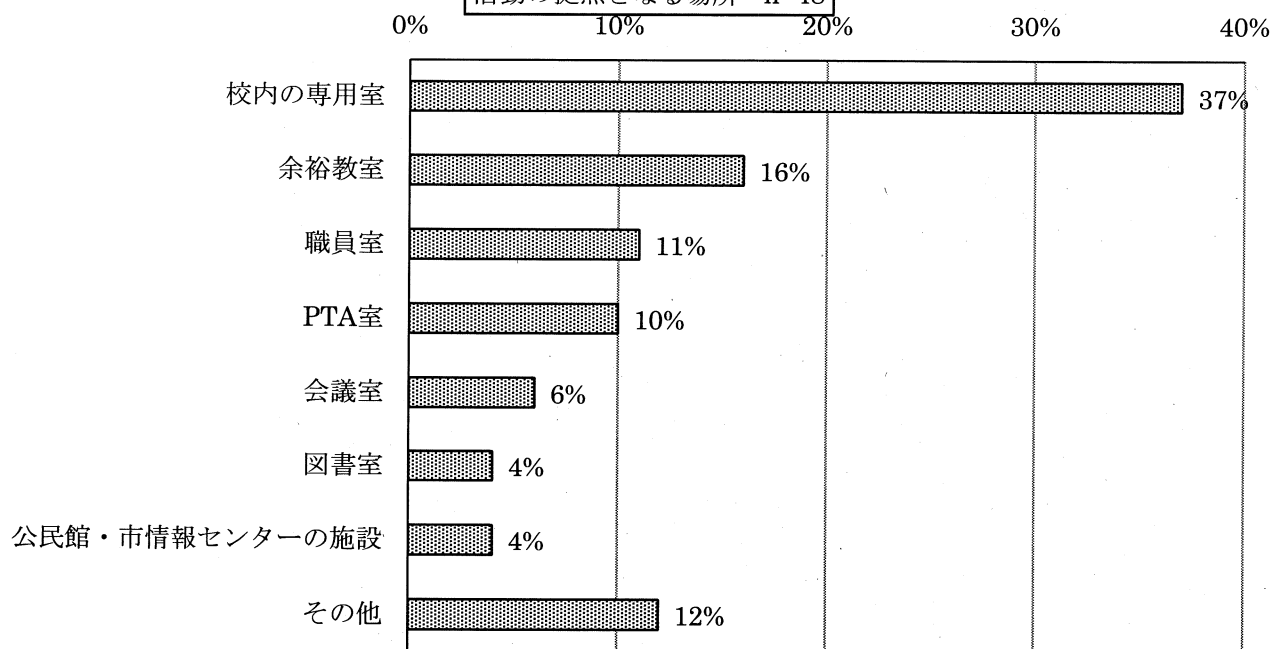
(カ) コーディネーター活動拠点②

そこはどこですか。

コーディネーター問 1 (4)

図1-ウ(カ)

活動の拠点となる場所 n=48



活動拠点があったと回答したコーディネーターのうち、37%が校内に専用室が設けられていたと回答している。続いて余裕教室が 16%、職員室が 11%、PTA 室が 10%であった。

その他・・・放送室。児童会室（児童会室とボランティア室併用）。印刷室。資料室 等

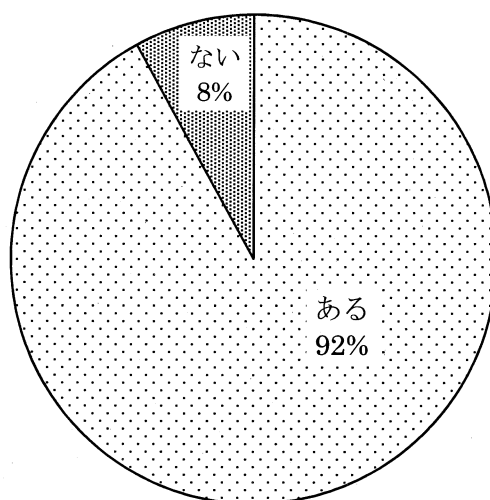
(キ) コーディネーターの謝金

コーディネーターとしての謝金がありましたか。

コーディネーター問 1 (5)

図1-ウ(キ)

コーディネーター謝金 n=61



謝金があったと回答したコーディネーターは 92%であった。

エ ボランティアについて

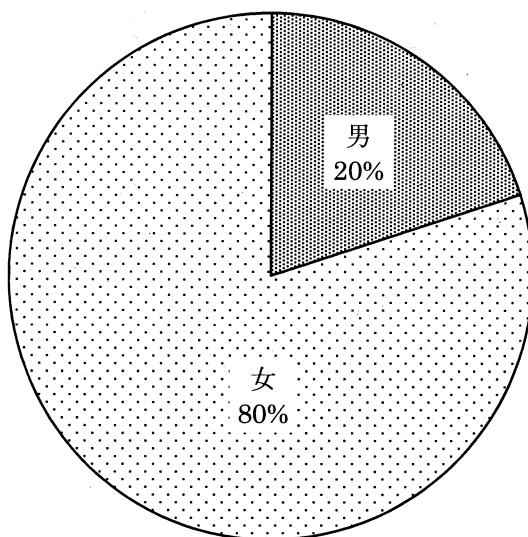
(ア) ボランティアの性別

性別は何ですか。(どちらか1つ)

ボランティア問 1 (1)

図1-エ(ア)

ボランティア男女比 n=95

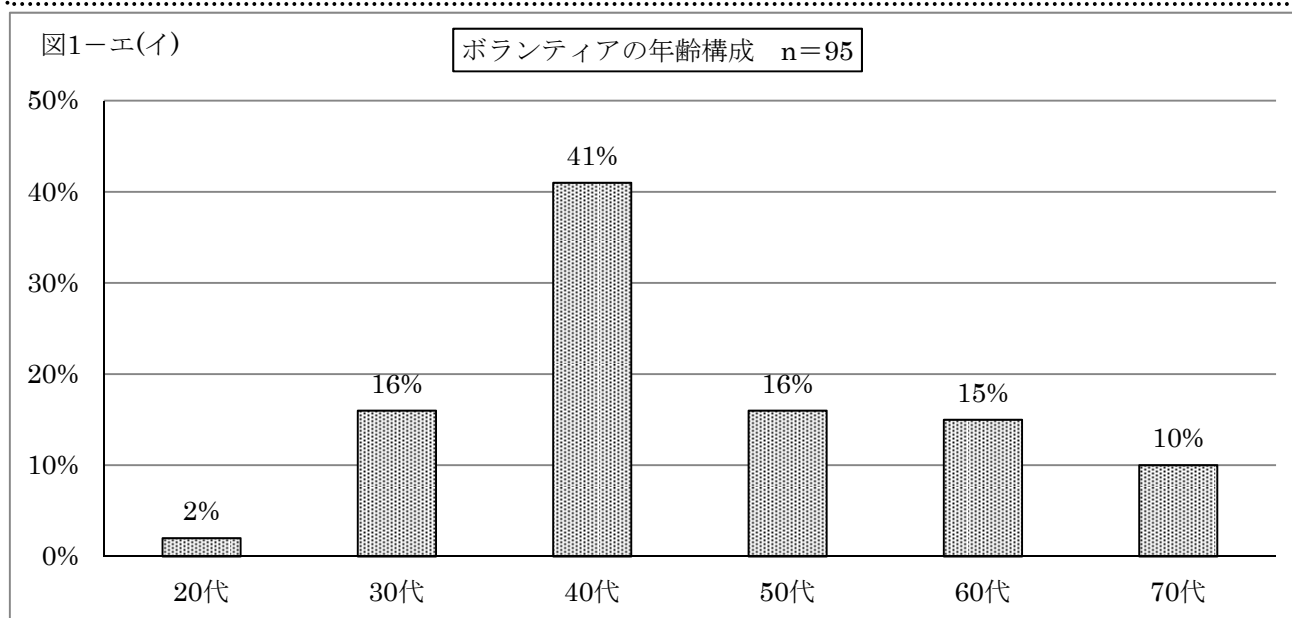


回答のあったボランティアの 80%が女性、20%が男性である。

(イ) ボランティアの年齢

年齢であてはまるものを選んでください。

ボランティア問 1 (2)

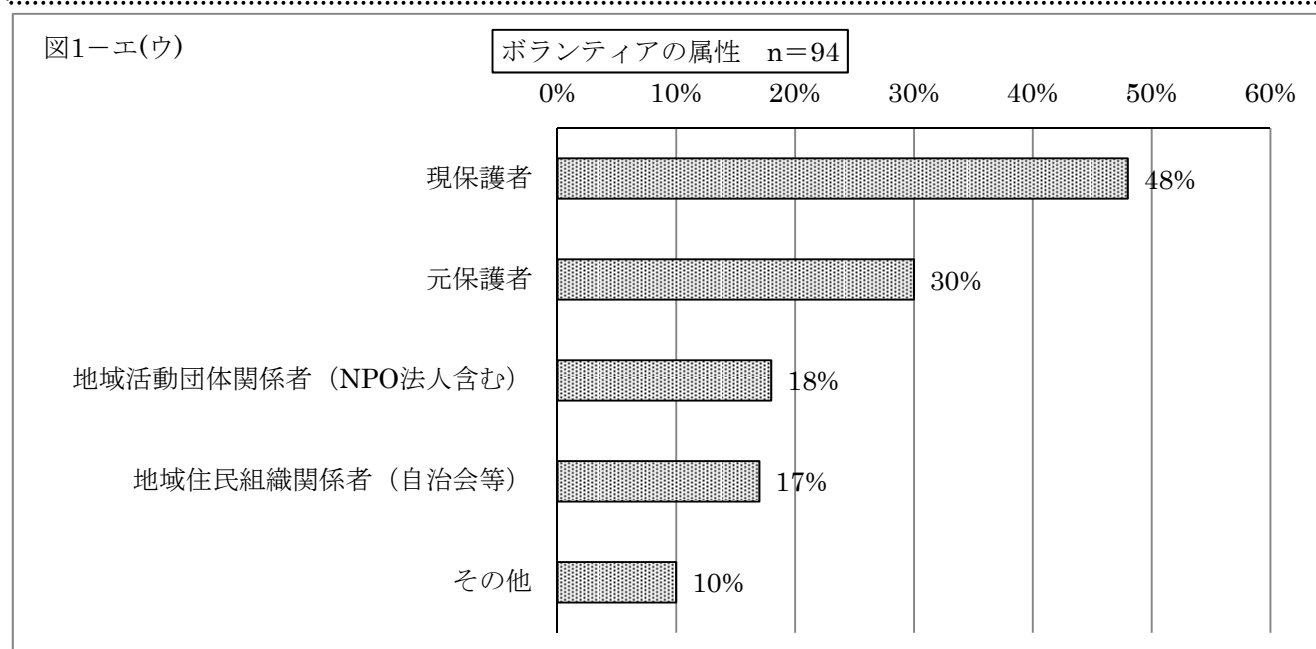


回答のあったボランティアの年齢は 40 代が 41%で最も多く、次いで 30 代と 50 代が 16%で同じ割合である。さらに 60 代 15%、70 代 10%となっている。

(ウ) ボランティアの属性

属性は何ですか。(あてはまるものすべて)

ボランティア問 1 (3)



回答が最も多かったのは「現保護者」で 48%、次いで「元保護者」で 30%であった。地域活動団体関係者 18%、地域住民組織関係者 17%とあり、地域での活動に取り組んでいる方も学校支援ボランティアとして活動していることが分かる。

その他・・・大学生。教員。元教員。